

PACS（画像保存通信システム）

日本赤十字放射線技師会 常任理事 広報部 荒井 一正

近年医療界ではフィルムレス化が進み、画像を PACS へデータ保管するのが主流となってきました。CT の thin slice 化などデータ量の増加に伴い、PACS の性能も向上してきています。また、年々ハードディスクの進化は止まず、今後も PACS によるデータ保管が医療において欠かせないものになってくるであろうという現状を踏まえ、PACS について会員の皆様にお知らせしたいと思い、このテーマとしました。

そこで、『現在の PACS の最新技術と病院規模によるシステムの考え方』と題して PACS 関連メーカー3社に寄稿をお願い致しました。また、『PACS の実際の運用』として PACS を導入している2施設より寄稿して頂き、今後 PACS の導入や更新を考えている施設の方々の参考になればと考えております。そして、ご寄稿して頂いたメーカー・会員の方々へ、貴重な時間を裂いて御執筆をいただきましたことに紙面を借りて深謝申し上げます。

【現在の PACS 最新技術と病院規模によるシステムの考え方】

富士フイルムメディカル株式会社 ITソリューション事業本部 五十嵐 昭人

【信頼される PACS クラウド・データホスティングを支える技術と運用】

GEヘルスケア・ジャパン ヘルスケア IT本部 松葉 香子

【統合画像ソリューションへの取り組みと今後の展望】

富士通株式会社 ヘルスケアソリューション事業本部 医療ソリューション事業部
第三ソリューション部 村尾 晃平

【京都第二赤十字病院 PACS システム・フィルムレス運用について】

京都第二赤十字病院 放射線科・医療情報室 放射線画像管理係長 辻本 武志

【武蔵野赤十字病院 PACS システム 運用について】

武蔵野赤十字病院 放射線科 佐藤 恒輔